

1. 科目名 (単位数)	社会福祉研究方法特論 (4 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5101
2. 授業担当教員	阿部 又一郎、先崎 章、金 貞任、尹 文九、田代 幹康、三野 宏治、加藤 洋子、佐々木 隆志			
4. 授業形態	講義、討論		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	社会福祉研究は、社会福祉という現実世界を解明することを基盤としている。これを解明するためには、様々な研究方法の修正と新しい手法が必要である。 この講義では、大学院の修士論文の作成のために必要な、研究の背景と目的、研究の意義、先行研究の収集の方法とレビュー、研究の設計と手順、研究の分析、研究の総括までのプロセスについて学習する。その際には、研究を実施する時に必須である研究の倫理と調査対象者の個人情報保護について学ぶ。最後に、修士論文の発表のプロセスとして、構想発表、中間発表、口頭試問、学会や研究会での発表の時に、わかりやすい発表の手法やポイントについて学ぶ。 この講義は、精神保健、障害者、高齢者、社会福祉政策等の多様な専門家から構成されるチームティーチングであり、様々な意見や議論が提示されることで、学習を深める機会となり、受講生の様々なニーズに対応することが可能である。			
8. 学習目標	1. 研究の背景と目的について学ぶ。 2. 社会福祉の法制度を研究する時のポイントについて理解する。 3. 先行研究のレビューの書き方を身につける。 4. 研究方法 (質的・量的評定) について学習する。 5. 医療・保健分野の研究手法について学ぶ。 6. 精神障害者への質の高い支援のための調査研究について学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Team Teaching の時にアサイメントなどがある。			
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 ・Peters U. H.: Diagnostische Bilder, Phänomene und Kriterien in der Psychiatrie—eine Gegenüberstellung. Fortsch. Neurol. Psychiat. 62 : 137-146, 1994. ・Hempel, C. G.: Fundamentals of Taxonomy. In: Aspects of Scientific Explanation. Free Press, New York, 1965.) ・レイチェル・クーパー著(伊勢田哲治・村井俊哉監訳)『精神医学の科学哲学』名古屋大学出版会、2015 年 ・吉田友子『アカデミックライティング入門』慶應義塾大学出版会 2006 年 ・APA Formatting and Style Guide (https://owl.english.purdue.edu/owl/resource/560/01/) ・岩田正美ほか『社会福祉研究法』有斐閣アルマ、2006 ・佐藤郁哉著『質的データ分析法～理論・方法・実践～』新曜社、2008 ・G.キング、R.O コヘイン、S.ウェバー・馬淵勝『社会科学のリサーチ・デザイン』勁草書房、2004 ・古川孝順『社会福祉学の方法』有斐閣、2004 ・文部科学省研究振興局振興企画課「人文学及び社会科学の学問的特性」平成 21 年 ・明石藻彦、『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァー書房、2018 年 ・佐藤雅昭『なぜあなたの発表は伝わらないのか? できてるつもり!? そこが危ないプレゼンテーション』メディカルレビュー社、2017 ・渡部欣忍『あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ! シンプルに伝える魔法のテクニック』南江堂、2014 ・老年社会学会科学雑誌、社会福祉学会雑誌、福祉社会学会雑誌、政策学会雑誌などを中心に配布			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 レポート作成と発表、ディスカッションなどを積極的にすることが望まれる。 ○評定の方法 レポート作成と発表、ディスカッション : 100% * 通信教育課程の成績評価 ①小論文の提出 ; 2 本 (研究の背景と目的のポイント、先行研究のレビュー)、②研究課題のレジュメ作成と発表 (集中講義の時)。			
12. 受講生へのメッセージ	本授業では、受講生の修士論文の作成のための有効な研究方法を身に着ける機会となる。受講生の研究ニーズに適切な研究方法のための知識と発見が求められる。			
13. オフィスアワー	各担当教員に確認する。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1 ～ 4. テーマ	精神保健医療福祉領域における量的・質的研究法の系譜 (阿部)			
【学習の目標】	社会福祉学における「根拠に基づく実践」(evidence based practice:EBP)は、医学における evidence based medicine(EBM)から派生したものである。後者に対する反立として narrative based medicine(NBM)の流れもあり、ここでは、それぞれを量的研究と質的研究に対応させながら、両方の流れに通底する研究法の基礎論を学ぶ。			
【学習の内容】	1. ドイツ精神医学の源流としてのゲーテ自然学、これと対立するアングロ・アメリカンの精神医学の底流をなす経験論哲学、そしてフランス精神医学の伝統的方法として観察と記述、これらについて学習する。 2. 欧州で統計への関心が高まり、Bertillon の分類が 19 世紀末に完成し、第二次大戦後 WHO がこれを採用し、改定を経て 2018 年に ICD-11 が完成した。 3. アメリカ精神医学は DSM-III(1980)以降、全ての精神疾患に関する操作的診断基準を掲げ、革新的な変化を遂げた。DSM-5(2013)においては、カテゴリーカルな(病名本位の)分類からディメンショナルなそれへのシフトが生じた。			
【キーワード】	類型、病像、現象、経験、基準、測定、操作主義、構造化面接、フィールドワーク、観察可能な含意、信頼性、妥当性			
【学習の課題】	1. 量的研究の前提となる概念の操作的定義について、精神症状評価尺度を例に学び取る。 2. 質的研究の手法となるインタビュー調査について、精神医学的面接法を例に学び取る。 3. 両方のアプローチのトライアンギュレーションについて、具体例を思い描いてみる。			

【参考文献】	Peters U. H.: Diagnostische Bilder, Phänomene und Kriterien in der Psychiatrie—eine Gegenüberstellung. Fortsch. Neurol. Psychiat. 62: 137-146, 1994. (本論文については日本語による詳細なレジュメを配布する) Hempel, C. G.: Fundamentals of Taxonomy. In: Aspects of Scientific Explanation. Free Press, New York, 1965.) レイチェル・クーパー著(伊勢田哲治・村井俊哉監訳)『精神医学の科学哲学』名古屋大学出版会、2015年 【学習する上での留意点】 精神疾患ないし精神障害に対する科学的アプローチについて一瞥しておくことは、ソーシャルワーク実践を科学的に展開するためにも大いに役立つはずである。
5～8 テーマ	医療・保健分野の研究手法を社会福祉分野の研究に生かす (先崎)
【学習の目標】	社会福祉分野の研究手法と医療・保健分野の研究手法とは共通する点、異なる点とがある。共通する点を中心に、理解する。 【学習の内容】 「研究入門」「論文に多用される多変量解析法」「健康関連 QOL 評価法」の内容をわかりやすく学習していく。各受講者の興味、研究題材に沿って話題を展開していく。 【キーワード】 仮説検証、研究デザイン、先行研究、選択バイアス、測定バイアス、実現可能性、エビデンスレベル、横断研究、縦断研究、観察研究、介入研究、質的研究、量的研究、信頼性と妥当性、標準化尺度、順序尺度、間隔尺度 【学習の課題】 各受講者の興味、研究題材を研究論文化するためには、どのような知識や方法論やスキルが必要か。 【参考文献】 雑誌「総合リハビリテーション」(医学書院) 2016 年号 1 月号～12 月号に連載された「研究入門」近藤克則氏 【学習する上での留意点】 各受講者の積極的な参加が望まれる。
9～12. テーマ	精神保健医療福祉領域における調査研究の意義 (三野)
【学習の目標】	精神障害者への処遇の歴史をふまえ、質の高い支援を提供するための調査研究について考える。 【学習の内容】 精神障害者の保健医療福祉はどうあるべきか、歴史や現状を理解しつつ調査研究を通じて今後の方向性を探る。 【キーワード】 リカバリー、心理社会的リハビリテーション、EBP: Evidence-Based Practice 【学習の課題】 精神障害者の医療・福祉は他の障害とは別扱いとする歴史が長く続いてきたが、この 10 年くらいの間に少しずつノーマライズされ始めてきた。しかし日本では支援の質についてはまだ本格的に論じられることがなく、従来の医学モデルの支援理念や方法が踏襲されている場合も多くみられる。より良い支援を提供するための調査研究のあり方について問題意識をもてるような授業内容にしたい。 【参考文献】 授業の初回にお知らせする。
13～16. テーマ	アカデミックライティングの具体的技術 (田代)
【学習の目標】	研究の始めから終結にいたるプロセスを概観し、収集されたデータを論文化するための具体的方法を理解する。 【学習の内容】 リサーチクエストンにはじまり、文献研究文の書き方、仮説、フィールドワーク、サーベイ、リサーチの倫理、全体の構成、結果と考察などを、ソーシャルワーク研究に基づき、演習を交えながら学習する。 【キーワード】 タイトル、研究の背景・意義、目的と目標、仮説、倫理的配慮、対象と研究方法、結果と考察、要旨あるいは抄録、謝辞と文献 【学習の課題】 上記の構成に添いながら、研究計画を構造化し、修士論文の全体像への予測をたてる。 論文作成上の具体的な注意事項を学ぶ。 【参考文献】 ソーシャルワーカーのためのリサーチ・ワークブック. 武田 丈. ミネルヴァ書房. 【学習する上での留意点】 各種の研究法を駆使してデータを収集し、文献から多くのことを学んだとしても、人に伝えるためにはそのための表現方法を学ぶ必要があります。研究を通して解明できたことをより多くの人に知ってもらうために、基本的な必要事項を学びましょう。
17～20 テーマ	先行研究レビューとは何か (金)
【学習の目標】	・高齢者などの先行研究レビューについて学習する。 ・先行研究のまとめについて学習する。 【学習の内容】 ・高齢者などに関する先行研究レビューの目的、オリジナルティを発見する。 ・先行研究のまとめの手法を学習する。 【キーワード】 ・先行研究レビュー、先行研究のまとめ、高齢者 【学習の課題】 ・受講生の課題研究の先行研究レビューをまとめる。 ・上記の内容を探索的に探る。 【参考文献】 ・岩田正美ほか『社会福祉研究法』有斐閣アルマ、2006 ・老年社会学会科学雑誌を中心に資料配布
21～23 テーマ	社会福祉学の研究方法と修士論文の書き方 (田代) → (佐々木)
【学習の目標】	社会科学という学問の中で社会福祉学の位置づけや学問としての特性、研究方法、論文の書き方などについて理解を深める。 【学習の内容】 社会福祉学という学問の特徴や内容について学習する。 社会福祉学の研究方法を学習する(総論)。 修士論文の書き方や先行研究はなぜ重要なのかについて学習する。 【キーワード】 社会福祉学の研究方法、マクロ、ミクロ、量的、質的 【学習の課題】 上記の学習内容やキーワードを事前に調べておくこと。 【参考文献】 ソーシャルワーカーのためのリサーチ・ワークブック. 武田 丈. ミネルヴァ書房.
24～25 テーマ	社会福祉学のマクロ研究 (尹)
【学習の目標】	社会福祉学の中で制度・政策のような研究アプローチについて理解を深める。 【学習の内容】 社会福祉学はなぜ概念の定義が重要なのか。 社会的ニーズと政策の関係を理解する。 社会福祉学の研究方法としてマクロ研究方法(制度、法、政策)などを理解する。 修士論文の書き方や先行研究、引用文献の記入などはなぜ重要なのかについて理解する。 【キーワード】 マクロ研究方法、法律、政策や制度 概念 【学習の課題】 上記の学習内容やキーワードの事前に調べて理解し、授業に参加する。 【参考文献】 児島亜紀子編『現代社会と福祉』東山書房 2015 古川孝順『社会福祉学の方法』有斐閣、2004 明石藻旁彦、『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房、2018 年

26～27.テーマ	社会福祉に関する法制度の立案制定のプロセスを把握する（1）（尹）
【学習の目標】	社会福祉実践の根拠となっている法制度の仕組みとその背景になった社会事情を一体的に理解する目を養う。
【学習の内容】	実際の法制度の制定、改正の課題について整理する。
【キーワード】	法律、国会審議、条例、政省令、告示、通達、審議会
【学習の課題】	各自が関心を持った法制度について事前にできる範囲で資料収集を行う。
【参考文献】	新聞（電子版含む）報道、専門雑誌等の記事、政府・自治体広報、各種議事録、関係者の証録
【学習する上での留意点】	表面に現れた情報の背後に隠された制度の制定・改廃の裏事情にも目を配る。
28-29.テーマ	社会福祉に関する法制度の立案制定のプロセスを把握する（2）（尹）→（加藤）
【学習の目標】	社会福祉実践の根拠となっている法制度の仕組みとその背景になった社会事情を一体的に理解する目を養う。
【学習の内容】	実際の法制度の制定、改正の過程について、事例をもとに学習する。
【キーワード】	政治 行政 審議会 国会
【学習の課題】	事前に配布した資料を読み、論点を理解しておくこと。
【参考文献】	吉原 健二、畑 満『日本公的年金制度史：戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規、2016 年 矢野 聡『日本公的年金政策史—1875-2009』ミネルヴァ書房、2012 年 吉原 健二、和田 勝『日本医療保険制度史(第3版)』東洋経済新報社、2020 年 柴畑 潤『医療保険の構造改革—平成18年改革の軌跡とポイント』法研、2007 年 介護保険制度史研究会編著『新装版 介護保険制度史：基本構想から法施行まで』、東洋経済新報社、2019 年
【学習する上での留意点】	制度実施の背景や条件について十分に理解すること。
30 テーマ	プレゼンテーションの技法（金）→（加藤）
【学習の目標】	プレゼンテーションの技法を身につけ、今後の発表に活かせるようにする。
【学習の内容】	プレゼンテーションの技法を学び、自らの研究構想をもとにスライドを作成する。
【キーワード】	プレゼンテーション パワーポイント
【学習の課題】	修士論文の提出プロセスにおいては、構想発表、中間発表、口頭試問といったプレゼンテーションの機会があり、それ以外にも専門演習等の授業において、論文の進捗状況等を発表する機会が設けられるものと考えられる。自らの研究を分かりやすく、伝える工夫をすること。
【参考文献】	佐藤雅昭『なぜあなたの発表は伝わらないのか？ できてるつもり!? そこが危ないプレゼンテーション』メディカルレビュー社、2017 渡部欣忍『あなたのプレゼン誰も聞いていませんよ！ —シンプルに伝える魔法のテクニック』南江堂、2014